

研究所ニュース No.108

りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:<http://www.f-jinken.com/>

<投稿> 公立夜間中学校福岡市に開設決まる～九州ではじめて～

福岡市は、2021年9月市議会で公立夜間中学校設置を表明し、関係予算が可決されたことを受けて、九州で初の公立夜間中学校の開校に向けて大きく踏み出しました。この件について会員の自主夜間中学「福岡・よみかき教室」大塚正純さんからの投稿です。

教育機会確保法

学齢期に様々な事情で義務教育を十分に受けることができなかつた人たちがこの社会に存在すること認め、教育を受けなおす機会を保障する「教育機会確保法」が2016年12月に成立しました。現在、12都府県36校の設置にとどまっています。

「福岡市の公立夜間中学」

今回、福岡市が設置を表明した夜間中学校は2022年4月に単独校として福岡市教育センター内(早良区)に開校します。

福岡市民で義務教育を修了していない人や不登校などにより義務教育が十分に受けられなかつた人などを入学対象者として国籍は問いません。初年度の22年は、40人程度の入学を想定するという大枠な形での内容です。福岡市教委は開校することを最優先に、開校に至るまでの多くの課題については今後とも柔軟に対応するという姿勢を示しています。

設置請願活動とニーズ調査要求

「福岡市に公立夜間中学校をつくる会」は、「教育機会確保法」の成立以降、約1万人の署名を集め、2017年と2020年の二度にわたって市議会に請願を行いました。請願活動は、設置要求とともに夜間中学という学びの場があることを「学び・学びなおし」を求める人たちや市民・県民のみなさんに伝えることでもありました。21年の4

月から5月にかけて福岡市教委が行った「公立夜間中学に関するニーズ調査」では、福岡市および近郊に196人もの通学の意思をもつた人たちがいること。その内訳で戦後の混乱期に学べなかつた人たちの数以上に10代から40代の人たちが163人と全体の83%を占めていることなども明らかになりました。

また、ニーズ調査によって体力や仕事などの理由から毎日通うことができない人たちにとって週2日の「よみかき教室」の必要性についても改めて考えることができました。

福岡市の公立夜間中学に求めること

公立夜間中学に集うたちは、年齢・国籍・学びの経験も異なる多様な人たちです。これまでの中学校とはすべての点で大きく異なります。

夜間中学は、学校から排除され、遠ざけられた人たちが学びを取り戻すために通ってくる場所です。学習者の願いに応えるためにも、その多様性を尊重し、設置後も継続的な改善ができる市民に開かれた学校づくりが進められていくことを強く願います。

自主夜間中学「福岡・よみかき教室」への [問合せ]

電話 080-2730-7806

ブログ <http://yomifukuoka.livedoor.blog>

報告 2021年度 第1回外国人部会 2021年10月17日(日) 14時~16時 於 吉塚御堂

テーマ 「ミャンマーの人々は今」 in吉塚御堂(吉塚市場リトルアジアマーケット)

講演1 「ミャンマーの友、生きて——ミャンマーでの老教師の9年の軌跡」

講師 瀧野 隆 (たきの たかし) さん

講演2 「祖国ミャンマーの今、福岡に生活する私たちミャンマー人たち」

講師 Ton Aung Kyaw (トン アウン チョウ) さん

参加者は、講師も含め、27名(会員と一般が約半々)で会場の吉塚御堂は満席でした。機関誌『リベラシオン』を定期購読をされている柳川高校からも、ミャンマーから帰国した生徒2人(男女)が先生の引率で参加されました。この日の吉塚御堂設置のミャンマー支援チャリティ・マスク募金は8万7千円ほど集まったそうです。瀧野さんから「ご支援誠にありがとうございました」と感謝のことばをいただきました。

【瀧野さんのお話】

(ミャンマーの歴史的概略)

1948年イギリスから独立／人口6,000万人／国土は日本の約2倍／アウン・サン・スー・チー将軍 アジア・太平洋戦争では、日本軍とともに英国と戦い、その後抗日へ転じた。大戦後、英国からの独立の道筋をつくったが、1947年、会議中に突然入ってきた集団に、多くの閣僚とともに射殺された。暗殺集団が何者かは、いまだに不明である。／1988年軍による民主化弾圧、国名をミャンマーにする。／2010年の総選挙で軍事政権が正式に解散、文民政権が発足した。／2015年の総選挙でアウン・サン・スー・チー政権が誕生・軍の既得権が剥奪されいく。経済の発展で格差問題が顕著になる。

(ミャンマーの現状)

経済格差の中で、人身売買が横行。男子はアラブ諸国に売られ、労働者に。女子は中国に売られ、メイドとして働かされている。確認はできていないが、臓器売買の対象に

なっているという話がある。2021年2月1日のクーデターは、軍の既得権確保が目的。今も、学校はすべて休校のまま。外出すれば、銃撃を受けたり誘拐されたりする危険がある。今は日本から送金があっても、ATMが使えないので引き出せない。銀行での払い出しは予約制で、入り口にいる警察官が手数料をとる。

孤児院の女子の集合写真に写っている女子は、みな尼さんの格好をしている。尼さんでなければ誘拐されてしまうので、あえてそういう格好をさせている。そのような状況の中でボランティア活動を続けている。

【ZOOMでミャンマー現地との交流】

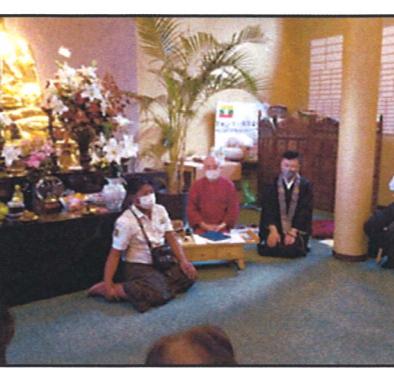
瀧野さんのお話の後、ZOOMでミャンマーにいる瀧野さんの教え子(日本語が話せる)と中継が繋がり、参加者からの質問に現地から応じてもらいました。

【西林寺の安武住職から】

西林寺の安武住職から、会場となった「吉塚御堂」のご紹介をしてもらいました。

「この吉塚地区には、仏教を信仰するアジア諸国出身の方々が多く住まれています。そうした方々から「自国の様式で、お釈迦様に手を合わせる場所が欲しい」という相談を受け、吉塚市場組合長の河津善博さん(トリゼンフーズ会長)にお話ししたところ、「ちょうど2mのお釈迦様ば作ってんしゃい」とすぐミャンマーに電話をされ、注文されました。その2週間後には、お釈迦様が、船に乗って日本に向かっていたということでした。ちょうど今から1年ほど前のことです。今年2021年3月に、ここ吉塚御堂でお釈迦様の開眼法要を行いました。以来、ミャンマーをはじめ、アジア諸国出身の方々が、毎日ここで手を合わせ、心のよ

りどころとなっています。」



(左からチョウさん、瀧野さん、安武住職)

【参加者アンケートから】

「非常にいい会だった。ミャンマーの現状、ミャンマー人の思い等、胸を打つものがあった。ミャンマーと中継がつながって現地の人と会話できたことは感動的だった。今後も応援したい」「とても厳しい状況の中でめげずに生き抜く子どもたちに励まされました」「瀧野さんの情熱に元気をもらいました。ありがとうございました。」

(事務局)

2021年10月9日(土)「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2021」

2018年に始まった「ふくおかカイゴつながるプロジェクト」は、介護・福祉業界の多種多様な団体がつながり、その魅力を発信する参加型イベントです。今年は福岡で介護職を目指す、ミャンマー・ベトナム・ネパール・中国からの留学生たちが「吉塚市場リトルアジアマーケット」の魅力をYouTube生中継でリポートしました。その中の一人、福岡市内の福祉の専門学校で学ぶミャンマー留学生のスウェイリアンさんにお話を伺いました。「28歳で日本に来て4年になります。最初は佐賀の日本語学校で1年学んで、その後、福岡市内の福祉の専門学校に通い始めました。学校に通いながらケア施設や病院でアルバイトをしており、介護職を目指しています。来年、介護福祉士の試験を受けます。もともとは5年間、日本で働いて帰国するつもりでしたが、今年になってミャンマーでクーデターが起き、現在はミャンマーにいる家族のことが心配。日本で介護職に就いて、家族を呼び寄せることができればと思います。」(吉塚市場の魅力を伝える留学生・巡回トゥクトゥク・スウェイリアンさん)

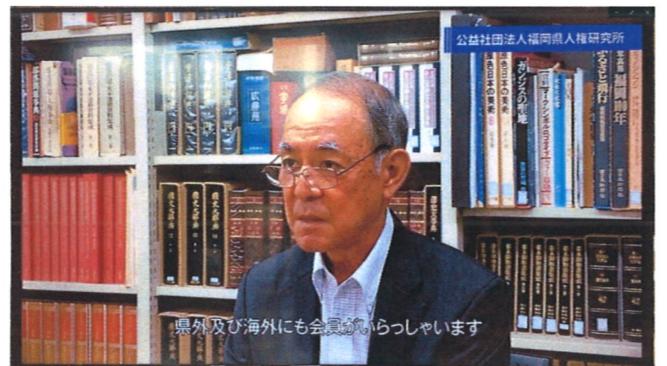


2021年10月24日(日) ハートフルフェスタ福岡『いのちの花』パネル展

今年の福岡市主催のハートフルフェスタ福岡で、当研究所ブースは副理事長そのだひさこさんの絵本『いのちの花』のパネル展を行いました。午前中は著者のそのだひさこさんも来られ、来場者に丸木俊さんの絵や、寛政五人衆についての熱い思いを語られました。会場はソラリアプラザ1階で人通りも多く、当ブースは約50名ほどの来場者がありました。ノートPCで絵本の朗読スライドショーも繰り返し流していましたが、会場が騒がしくて音声が聞き取りづらいため、展示パネルの本文を1枚1枚じっくりご覧になる方が多くいらっしゃいました。感染症対策で人の接触を減らすため、各ブースに椅子は無く、スタッフが常駐できないようになっていたため、ほとんどのブースがスタッフ無人でした。各団体の紹介映像は大型モニターで、エンドレスで流れていました。年々、出展団体が減少していることについて、ココロンセンターの方にお話を伺ったところ、「今回は物販が出来ないため、各団体が人員確保が難しいとのことで、参加団体が少なかった」とのことでした。



←大型モニター本研究所の紹介↓原田所長の説明映像



<お知らせ> ふれあいフェスタ2021×北九州市障害者芸術祭

標記のフェスタが11月21日(日)11時から北九州市戸畠区汐井町1-6 ウエルとばた(JR戸畠駅南口)で開催されます。昨年はコロナ禍で中止でしたが、「ふれあいで、笑顔がふくらむ、人権のまちづくり」「みんなの夢が響く瞬間(とき)、輝くところ」をテーマに開催されます。

ふれあい広場では本研究所も活動の紹介などを行います。ぜひご来場下さい。

ステージイベントでは木山裕策さんのふれあいフェスタ特別コンサート、尾木直樹さんの人権講演会が予定されています。ハートフルフェスタ福岡とともに人権について考える機会となることでしょう。詳細は同封のチラシを参照してください。

【受託事業紹介】

愛知同企連OB有志の会 福岡・対馬人権フィールドワーク

愛知同企連OB有志の会 名波龍弘

2011年から始めた私たち「愛知同企連OB有志の会」は、人権フィールドワークは11回目になりました。今年は9月16日から国境の島、対馬を皮切りに炭鉱の街・田川そして、解放の父松本治一郎さんを輩出した福岡を5泊6日で訪ねました。

福岡市博多区の松本治一郎さんゆかりの地を福岡県人権研究所の峰さんのガイドで巡りました。まず1929年300名の被差別大衆が下獄する松本治一郎さんとともに写真を撮った東公園の亀山上皇の銅像を見ました。驚いたのは像の大きさで、



私は思いました。上皇が言った「我が身をもって国難に代わらん」この言葉と松本治一郎さん

上皇の像でこんなに大きなものを見たことがありませんでした。て、ここでの写真撮影だったのその近くの日蓮像も大きくて驚きました。

それほどに博多の地では「元寇」は大きなことであったのかと大光寺の納骨堂では、まちづくりを記念して建てられた石碑、松本治一郎さんの言葉「不可侵、不可被侵」を見て心に響くものがありました。「人間の権利はこれを侵してはいけない、また侵されてもいけない」人権の本質をとらえた素晴らしい言葉だと再認識しました。

この石碑を直に見たことが大きな成果であり、福岡に来た甲斐がありました。

～ブックフェア in 北九州～



本研究所では、これまでお知らせしたように出版事業に力を入れています。6月～8月末まで北九州市小倉の喜久屋書店でブックフェアが開催されました。本研究所も出店しました。北九州や筑豊関連の論文が掲載された『リベラシオン』や『人権とは何か』のブックレット、絵本を売ることができました。本研究所の出版物について、会員以外の一般の方に向けての宣伝にもなりました。ブックフェアは、今後も開催される予定です。その際は、ホームページなどでお知らせします。会員のみなさんも、ブックレットの購入や機関誌『リベラシオン』などを知人の方に紹介するなど、販売へのご協力をお願いします。

(写真は『若松軍艦防波堤』著者・松尾敏史さん提供)

「人権社会確立第40回全九州研究集会」録画配信のお知らせ

5月27日(木)～28日(金)宮崎市で開催予定されていた標記集会は、新型コロナウイルス感染症予防のため録画配信による開催となりました。開催要項より案内します。

配信期間：11月29日(月)午後1時～12月12日(日)午後5時まで。

内 容：講座1 講師 部落解放同盟中央執行委員長 組坂 繁之さん
演題 「部落差別をなくすために！」

講座2 講師 部落解放同盟中央副委員長 片岡 明幸さん
演題 「『全国部落調査』裁判の判決と今後の課題」

講座3 講師 近畿大学名誉教授 奥田 均 さん
演題 「差別問題理解の基礎基本—部落差別解消推進法に学ぶ—」

参加費：3,000円 *参加申込・詳細は「人権社会確立第40回全九州研究集会」で検索

部落ネット公開は違法 「プライバシーを侵害」 出版社に賠償命令 「『全国部落調査』復刻版出版事件裁判」 東京地裁判決

「全国部落調査」復刻版出版事件裁判の判決を東京地裁(民事第12部(成田晋司・裁判長)が言い渡しました。(以下は、西日本新聞2021年9月28日(火)朝刊をもとにしています。)

○ 東京地裁判決

全国の被差別部落地名リストのネット公開や書籍化は「差別を助長する」として、東京地裁で判決がありました。成田晋司裁判長は「出身者が差別や誹謗中傷を受ける恐れがあり、プライバシーを違法に侵害するとして、被告側に該当部分の削除や出版禁止、計約488万円の損害賠償を命じました。

一方、自ら個人情報を公にしている場合などはプライバシーの侵害を認めず、一部原告は敗訴。地名リストに掲載された41都府県のうち、関連する原告がないことなどから佐賀、長崎を含む16県については削除や出版禁止を認めませんでした。原告、被告双方が控訴することを表明しています。

判決理由で成田裁判長は、「今なお部落差別は解消されたとは言い難く、住所や本籍が地名リストの地域内にあると知れると

差別を受けると推認できる」と6年、現在地を書き加え、復刻版し、身元調査などを容易にする影響があると指摘しました。リストによる損失は「結婚、就職で差別的な取り扱いを受けるなど、深刻で重大であり、回復を事後に図ることは著しく困難」としました。

被告側のサイトに掲載された、全国の被差別部落出身者らでつくる「部落解放同盟」幹部の氏名、住所などについても、「通常他人にみだりに知られたくない私的な事柄だ」として違法性を認めています。

原告側が、法の下の平等を定めた憲法14条にも基づいて主張した「差別されない権利」については、「内実は不明確」として退けられました。

地名リストの出典は、戦前に政府の外郭団体がまとめた「全国部落調査」。5360以上の被差別部落の地名などが掲載されましたので、被告の男性が201

2022年2月15日(火)「2021年度啓発担当者のための人権講座」の講師を内田博文さんにお願いしています。人権三法施行後5年が経過しました。法の効力とこれからの課題を提起してもらいます。

(事務局)

< 『福岡市政だより』No.1695 SDGs特集号を読んで >

10月15日発行の『福岡市政だより』は「誰一人取り残さない『持続可能』な未来へ SDGsについて考えてみよう」というSDGs特集号でした。

SDGs「Sustainable Development Goals = 持続

可能な開発目標」について、地球上の誰もが安心して暮らし続けるように17の国際目標を立て2015年国連サミットで全会一致で採択されたこと、福岡市では、市民とともに策定した「福岡市総合計画」に基づきSDGs達成

に取り組んでいること、さらに、国連ハビタット福岡との連携やアジア太平洋都市サミットなどを通じてアジア諸都市のSDGsにも貢献していること、「SDGsの出前講座」を行っていることなどが書かれていました。

具体的な取り組み例として

①豊かな博多湾を未来へ残すため、「アマモ場」づくりの活動(目標6:安全な水とトイレを世界中に、目標13:気候変動に具体的な対策を、目標14:海の豊かさを守ろう)

②地元企業と連携し「再生可能エネルギー」「環境に優しい天然ガス」などについて楽しく学ぶ市科学館取り組み(目標7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに、目標9:産業と技術革新の基盤をつくろう、目標11:住み続けられるまちづくりを、目標12:つくる責任 使

う責任)

③市民・企業・行政が協力し海岸や河川、公園等を一斉に清掃地域美化活動「ラブアース・クリンアップ」などが紹介されていました。

市民にSDGs精神が浸透していくことを願います。

本研究所では“2021年度啓発担当者のためのつどい”で「SDGsと人権と私たち」の演題で西尾紀臣副理事長に講演してもらいました。

その時、強調された(目標10:人や国の不平等をなくそう、目標7:ジェンダー平等を実現しよう)など「人権問題」との関連でSDGsを考えていかないと「だれ」のためのSDGsから見えなくなってしまいます。これについてもつと取り扱ってほしいという思いをもちました。

(事務局)

< 会員投稿 >

「コロナ感染症流行を思う」

新型コロナ感染症の拡大もここしばらくは、ひとけたの罹患者で推移して、人々の移動も平常時と変わらなくなりつつあります。電車通勤も座っていたのが、座れなくなりました。昨年の突然の休校措置では、働く親たちに大混乱をもたらしました。子どもは国の未来であり、本来は国がお金をかけて教育するべきですが、「教育は家庭の責任」を明確にした一件でした。

ところで、インフルエンザもそうですが、流行時に罹る人とそうでない人がいるのはなぜでしょう。1918年(大正7年)に流行ったインフルエンザ(スペイン風邪)では、世界中で6億人が罹り、4000万人が亡くなっていますが、人類としては生き延びています。罹る人とそうでない人がいたからです。

人間の遺伝子の解読が進んでいますが、どこがどういう働きをしているかについては、まだ、多くが分かっていないようです。この分かっていない部分の多くは、人類がその発生の頃から罹ったウイルスに対抗してできた部分ではないかと推測されています。新型といっても元になったものはあるのですから、罹らない人は、それへの免疫遺伝子をどこかに持っているのかもしれません。

人間を生物の一員として考えると、人類はたった一つの種ですが、だれ一人として同じ人はいません。同じ遺伝子を持った人ばかりだと、一度に病気になってしまい、人類はどうに滅んでいたことでしょう。人類は結婚を繰り返し、遺伝子をかき混ぜることで多様性を持ち、ウイルスのような脅威から生き延びる者を生み出してきたのです。

16世紀はじめ頃まで、民族が一つのまとまりとして棲んでいた時代、特に南極の近くの、寒冷で空気が澄んでいた南米のチリ、パタゴニアには、ウイルス自体がいませんでした。そこに、初の世界一周で有名な「マゼラン」がやってきました。

そこに棲んでいた人々は、マゼランが持ち込んだ結核やインフルエンザ等のウイルスで、次々に亡くなっていました。そして、ついには、民族そのものが地上から消えてしまうということが起こりました。(本田勝一『マゼランが来た』参照)

マゼランは、ヨーロッパにたくさんの発見と富を持ち帰りましたが、世界中に結核菌とインフルエンザウイルスをまき散らして行きました。現代の私たちは、リスクはあるものの、免疫力をワクチンの開発で補うようになりました。しかし、ウイルスも自らの生存をかけて、変化しています。

事／務／局／日／誌／か／ら

(2020年8月30日～10月28日)

8月

31 火 第19回事務局会

9月

7 火 第20回事務局会、「ハートフルフェスタ福岡」録画撮り

14 火 第21回事務局会

21 火 愛知同企連OB有志の会フィールドワーク
第124回松本・井元研究会

28 火 第22回事務局会

10月

2 土 役員選考準備会

3 日 第3回啓発部会

4 月 市町村新任課長研修⑥(大野城市)

5 火 第23回事務局会 リベラシオン福岡市取材

9 土 第2回部落史部会史・資料プロジェクト学習会(古賀市)
第2回教育部会

10 日 執行理事会、理事会(ボランティアセンター)

12 火 書庫整理

17 日 第1回外国人部会(福岡市)

18 月 市町村新任課長研修⑦(大野城市)

19 火 第24回事務局会 第125回松本・井元研究会

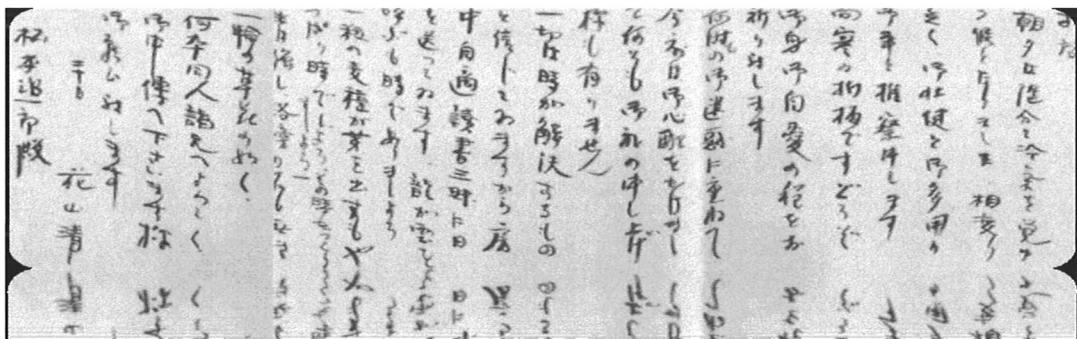
20 水 大阪同企連11班フィールドワーク打合せ

24 日 2021年度「ハートフルフェスタ福岡」(福岡市)

26 火 第25回事務局会

※ 住民意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務、関係機関・団体との連携・調整事務等については一部省略しています。(場所を示していないものは、研究所事務局で行っています。)

全国・全九州水平社設立百周年特別連続講座第1回開催のお知らせ **解放の父・松本治一郎への手紙」に見る九州水平社の熱と光」**



水平社宣言は、差別は差別する側の問題であることを、日本で最初に表明しました。差別の受容を強いられた人々は、水平社宣言によって祖先への誇りを奪還し、人間の痛みを知る我々だからこそ、人間を尊敬することによって社会を変えていこうという強い使命感を抱き、荊冠旗のもとに結集しました。本講座では、解放の父・松本治一郎への手紙を通じて、九州水平社を担った人々の水平運動へのかかわりを読み解き、手紙にだからこそ綴られるそれぞれの心情を具体的に考察します。このことは、分断化や当事者性の希薄化が著しいこれからの社会において、差別や格差のなかを生き抜くために大切なことは何なのかを考える一助になると考えます。

日時：2021年11月20日(土) 14:00～16:00

会場：福岡市堅粕人権まちづくり館（福岡市博多区堅粕1-23-1）

詳細、申込は、同封のビラを参照してください。